

アート&テクノロジー東北 2022 講評

2022年9月28日

今回もコロナ禍によってホームページ開催となってしまいました。応募総数は34点で、同じくホームページ開催とせざるをえなかった昨年度とほぼ同数の力作が集まりました。昨年度との違いは海外からの応募も若干復活してきたことです。

本コンテストの軸となっていた作者本人によるプレゼンテーションが実施できず、今回もホームページ上での応募作品の動画や静止画の提示という手段での開催になってしまったのは残念なことでした。しかしながら、そのような場でも秀逸な作品は変わりなく輝いているように思いました。

審査の結果、最優秀賞となった「青銅鏡の魅力への智覚」は、古代の青銅鏡を製作するだけでなく、その魅力を伝え、学習効果も考えたインスタレーションの作品でした。これは高いレベルでの研究に裏打ちされており、そのインパクトが他よりも抜きん出ていました。また、優秀賞の「一方通行」は、蝶とトンボの立体造形物が実物もその鏡映像も見る人から遠ざかる方向を向いているように見える錯覚作品であり、一見してもなかなかその仕組みを容易に理解することはできません。これも多大な研究の積み重ねによってなされた見事な仕上がりでした。さらに同位の優秀賞「球体の万華鏡壁

Kaleidowall of Sphere」は、鑑賞者が動くことで映る像の変化を楽しむことのできる大きな設置型の万華鏡ですが、こちらも最優秀賞の受賞となった応募者によるものであることには驚かされました。

審査員特別賞の「Drawing Music」、「Color Adventure」、「感覚交換」は、実際のプレゼンテーションが可能であったなら、来場者に楽しんでいただけたらうと想像できるデモンストレーション動画となっていました。その他、今回は、エンターテインメントとしても有効な質の高いアニメーションも多く、海外からもご応募いただき、ホームページ開催となってしまった本コンテストに彩りを与えていただきました。

残念ながら受賞されなかった作品についても、それぞれ独自性のある新たな創造の試みを感じられ、今後、益々の発展が期待できるものばかりです。

まだまだたいへんな時期にご応募いただき、誠にありがとうございました。

岩手大学 人文社会科学部 本村健太